修士論文（要旨）
2013 年 1 月

在ドイツ日本語補習授業校の現状と課題
―国語教育と継承日本語教育―

指導　佐々木倫子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
211J3004
菊地ゆかり

目次

第 1 章　はじめに 1
1.1　問題の所在　1
1.2　研究目的 2
1.3　先行研究 2
1.4　調査方法 4

第 2 章　補習校の抱える問題　5
2.1　国語教育・日本語教育・継承語教育の違い 5
2.2　補習校の財政 7

第 3 章　補習校の教育 11
3.1　在外教育施設 11
3.2　補習校の設置目的と現状 12

第 4 章　補習校と設置都市の性格 16
4.1　日本人学校と補習校の双方が設置された都市 16
4.2　インターナショナルスクールのみ設置された都市 18
4.3　設置年代・まとめ 20

第 5 章　アンケート調査　22
5.1　協力校 22
5.2　調査　26
5.3　分析　44

第 6 章　インタビュー調査　46
6.1　ヨウコの事例　46
6.2　リコの事例　53
6.3　オカヤマの事例　58

第 7 章　まとめと展望　62
7.1　補習校の成長過程　62
7.2　教師・保護者・子どもたち　63
7.3　おわりに　66

参考文献
参考サイト
資料

本論文ではドイツにおける補習校の抱える問題点について調査・検証を行った。現在の補習校では問題点は大きく二つに分けられる。一つは補習校が文科省から託された教育内容と、現場で実際に必要とされる教育内容の違いであり、もう一つは慢性的財政難である。

教育内容

文科省の規定により、補習校では「帰国に備えた教育」がされなければならない。しかし、実際に現場で求められている教育は何であろうか。この問題には、補習校の設置状況・周囲の日本人社会の状況が大きな影響を与えている。帰国を予定した子どもたちが多い場合、反対に国際児や永住組日本人の子どもたちが多い場合、それぞれの補習校が求められる教育内容は異なる。アンケートではどちらの保護者も「国語教育」を希望していると答えてはいるが、その内容になにか違いはないのであろうか。

慢性的財政難

補習校がドイツに設置され始めた当初と比べ、日本人社会を取り巻く状況は大きく変化した。そして国際児や永住組日本人の子どもたちが増大した今日では、文科省の指針と現場のニーズが一致しないという現状が散見されるようになってきたのである。そのため、補習校の教師たちは子どもたちのために、何ができるのであろうか。また、文科省から助成金を受けているとはいえ、補習校は慢性的な財政難の中にある。小中規模の補習校ほどその傾向が大きく、運営に対してボランティア精神が、教師と保護者の双方に要求されているのが現状である。このような状況にあって、なぜ教師は補習校教師であり続けるのであろうか。

以上について、ドイツにおける補習校の歴史、および設置都市との関係性を考えた上で、補習校の教師・保護者の双方にアンケートを行った。保護者は駐在員家庭なのか国際家庭・永住組日本人家庭なのかという背景の違いが、求める教育内容にも表れていると言える結果であった。前者は文科省の定める基幹教科・帰国に備えた「国語教育」を求め、後者は「継承日本語教育」を求めているのである。後者が子どもたちの教育として「国語教育」を希望しても、それは自らのルーツである自国（日本）の文化を尊重するという意味であり、「継承日本語教育」である。教師はそういった現場のニーズに合わせようと日々努力をしている。しかし財政難も一つの要因となり、クラス内の多数派に合わせているのが現状である。このような補習校において、教育の主役である子どもたちはなにを感じ、なぜ補習校へ通い続けるのか。補習校卒業生とその保護者に行ったインタビューでは、子どもたちは補習校を「仲間と交流する場」として位置づけていることが判明した。

今後、ドイツの補習校においては、現在以上に継承日本語教育の必要性が高まってくると考えられる。そして、日本語（学習）をとおして仲間と交流する場を提供し続けることも、課題のひとつとなるのである。

参考文献

青木麻衣子・萩野祥子（2010）「オーストラリアにおける日本人居住者の母語教育に対す意識：日本語補習校でのアンケート調査結果からわかること」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』pp.1-22

奥村三菜子（2006）『ドイツの補習授業校における日本語教育に関する研究』東京学芸大学 大学院教育学研究科修士学位論文

奥村三菜子（2010）「ドイツの日本語補習校幼児部における現状・実践・考察」『母語・継承語・バイリンガル教育（ＭＨＢ）研究』Vol.6 MHB 研究会 pp.80-95

佐々木倫子（2003）「加算的バイリンガル教育にむけて―継承日本語教育を中心に―」『桜美林シナジー』pp.22-38

佐藤郡衛(2010)「異文化間教育におけるカテゴリーの問い直し」『異文化間教育―文化間移動と子どもの教育』明石書店 pp.41-67

鈴木一代（2005）「日系国際児の文化的アイデンティティ形成―事例の検討―」『埼玉学園大学紀要（人間学部編）』第 5 号 pp.85-98

ダグラス雅子・片岡裕子・岸本俊子（2003）「継承語校と日本語補習校における学習者の言語背景調査」『国際教育評論』東京学芸大国際教育センター pp.1-13

中島和子（2003）「JHL の枠組みと課題―JSL／JFL とどう違うか」『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』プレ創刊号 MHB 研究会 pp.1-15

藤森弘子・柏崎雅世・中村彰・伊東祐郎（2006）「日本人学校・補習授業校における日本指導の現状と課題」『日本語教育』pp.80-89

文部科学省（2011）『海外で学ぶ日本の子どもたちー我が国の海外子女教育の現状ー』

参考サイト

ドレスデン日本語補習校（最終検索日 2012.11.20）http://www.dresden-hoshuko.de/

ハイデルベルグ日本語補習授業校（最終検索日 2012.11.20）
http://www.hoshuko-heidelberg.de/

フランクフルト補習授業校（最終検索日 2012.11.20）http://frankfurt-hoshuko.de/

文部科学省「海外子女教育の概要」『CLARINET へようこそ』（最終検索日 2012.11.20）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/004/001/001/001.pdf

文部科学省「在外教育施設の概要」『CLARINET へようこそ』（最終検索日 2012.06.15）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/002.htm

文部科学省・小学校学習指導要領（平成 10 年 12 月）・第 2 章各教科・第一節国語（最終検索日：2012.11.02）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1319951.htm

文部科学省・中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月告示）第 2 章各教科第 9 節外国語（最終検索日：2012.11.02）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320124.htm

文部科学省「補習校の性格」『CLARINET へようこそ』（最終検索日 2012.11.20）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/001.htm